

# 吉田富三生誕110周年記念 シンポジウム

入場無料



吉田博士は現在の浅川町に生まれた。世界初の人工肝がんの生成(昭和7年)、移植可能ながん細胞「吉田肉腫」の発見(同18年)により、がん研究の発展に大きく貢献した。東大医学部長、癌(がん)研究会研究所長などを歴任、国の国語審議会委員も務めた。同34年に文化勲章受章。

●日時／平成25年 **9月8日(日)**

13:00開場／13:30開演

●会場／郡山市・市民交流プラザ(ビッグアイ7階)  
郡山市駅前二丁目11番1号

## 【プログラム】

13:30  
あいさつ

内田宗寿氏(吉田富三記念館名誉館長)

## 吉田富三先生の業績とお人柄

ナビゲーター：阿部正文氏(福島県立医科大学副学長)

講演 菅野晴夫氏(がん研究会顧問)

「人とそのお仕事」

樋野興夫氏(順天堂大学医学部病理・腫瘍学教授)

「業績の現代的意義」

下川功氏(長崎大学医学部長)

「長崎時代のお仕事」

13:35  
第1部

講演 岸本葉子氏(エッセイスト)

「がんから始まる 体験者のメッセージ」

14:35  
第2部

## 総合討論

パネラー：菅野晴夫氏、樋野興夫氏、下川功氏、岸本葉子氏

司会：石田卓氏(福島県立医科大学附属病院臨床腫瘍センター長)

申し込み方法は裏面をご覧ください。

■主催／福島民報社、一般財団法人浅川町吉田富三顕彰会

■共催／浅川町、福島県立医科大学、長崎大学

■後援／郡山市、福島県医師会、福島県歯科医師会、福島県病院協会、公益社団法人福島県看護協会、公益財団法人福島県保健衛生協会、社団法人福島県臨床衛生検査技師会、福島県病院薬剤師会、東北がんプロフェッショナル養成推進プラン、吉田富三顕彰会



講師

第1部 菅野晴夫 (すがの はるお)  
がん研究会顧問



1925年、山形県生まれ。1951年東京大学医学部医学科卒業、同年、同病理学教室入局。財団法人癌研究会癌研究所病理部長、同所長、同名誉研究所長などを経て、2006年より現職。胃がん細胞の継代培養、上咽頭がんからのEBウィルスの検出、脱がん現象の解析など常にがん病理の最前線で活躍。日本病理学会・日本癌学会名誉会員。高松宮妃癌研究基金学術賞、紫綬褒章、日本癌学会吉田富三賞を受賞。文化功労者。

第1部 樋野興夫 (ひの おきお)  
順天堂大学医学部病理・腫瘍学教授



1954年、島根県生まれ。医学博士。癌研究会研究所(癌研)病理部、米国アインシュタイン医科大学肝臓研究センターなどを経て現職。順天堂大学医学部附属順天堂医院に2005年に「アスベスト・中皮腫外来」、2008年に「がん哲学外来」を開設した。主な著書に『われ21世紀の新渡戸とならん』、『われ Origin of Fire たらん - がん哲学余話』

『がん哲学』など。

第1部 ナビゲーター

阿部正文 (あべ まさふみ)

福島県立医科大学 理事兼副学長/  
放射線医学県民健康管理センター長



福島県生まれ。1973年、福島県立医科大学医学部卒業。福島県立医科大学医学部長などを経て、2010年より現職。2013年4月から放射線医学県民健康管理センター長を務める。医学部5年生時に医学祭実行委員として吉田富三博士を特別講演者として招聘した。

第1部 下川 功 (しもかわ いさお)  
長崎大学医学部長/大学院医歯薬学総合研究科、探索病理学教授



長崎市生まれ。1982年長崎大学医学部卒業、1986年大学院医学研究科修了(医学博士)。1988年から2年間、米国テキサス大学サンアントニオ校にて、老化とカロリー制限の研究に従事。帰国後、2000年4月より現職。研究テーマは、ほ乳類の寿命制御機構、カロリー制限による抗老化メカニズムなど。日本病理学会評議員、日本基礎老化学会評議員、アメリカ老化学会フェロー、アメリカ老化協会雑誌編集委員など。2013年4月から医学部長。

第2部 岸本葉子 (きしもと ようこ)  
エッセイスト



1961年、神奈川県鎌倉市生まれ。東京大学教養学部卒業後、旅や日常生活をテーマにしたエッセーを数多く発表。2001年虫垂がんの治療を受け、NPOがんサポートコミュニティに参加したのを機に、執筆のかたわら対がん活動に携わっている。著書は『がんから始まる』『がんから5年』、精神腫瘍科の医師との共著『がんと心』(いすれも文春文庫)、『いのちの養生ごほん』(中公文庫)、『ちょっと早めの老い支度』(オレンジページ)等多数。

第2部 総合討論司会

石田 卓 (いしだ たかし)

福島県立医科大学医学部呼吸器内科学講座准教授/  
附属病院臨床腫瘍センター長(センター長・病院教授)



1965年、秋田県生まれ。1989年北海道大学医学部卒業。北海道大学医学部附属病院、国立療養所北海道第一病院を経て、1999年より福島県立医科大学附属病院に勤務。2008年5月から現職。

ENTRY

お申し込み

参加ご希望の方は郵便番号、住所(聴講券送付先)、氏名、年齢、職業、電話番号を明記の上、はがき、ファクス、Eメールでお申し込みください。

※本件で取得した個人情報は当選者への聴講券発送のみ使用いたします。  
※応募多数の場合は抽選となります。

(お問い合わせ) 福島民報社広告局企画推進部

☎024-531-4161

(平日9:30~17:00)

参加申込書

平成 年 月 日

ふりがな お名前		年齢	才
ご住所	〒		
E-mail	(TEL: - - ) (FAX: - - )		
ご職業			

福島民報社広告局「吉田富三シンポジウム」係  
〒960-8602 福島市太田町13-17

E-mail:kikaku@minpo.ne.jp  
F A X:024-533-4343